

古文ドリル：係助詞「ぞ・なむ・や・か・こそ」識別100問

対象：高校生・大学受験生 著作権：個別指導塾フィット / 中本裕太

はじめに：係り結びの法則

古文の係助詞「ぞ・なむ・や・か・こそ」は、**文末の活用形を変える**。これが「係り結びの法則」。

係助詞	結びの活用形	意味
ぞ	連体形	強調
なむ	連体形	強調（柔らかく余情的な強調）
や	連体形	疑問・反語
か	連体形	疑問・反語
こそ	已然形	強調

識別の鉄則

1. **文中に係助詞**を見つける
2. **文末の活用形**を確認（連体形 or 已然形）
3. **意味**を判定（強調 or 疑問・反語）
4. 「こそ」＋已然形が**文中で切れる**と **逆接** になる場合あり
5. **結びの省略**に注意（「あれ」「あらめ」などの省略）
6. **結びの流れ**（結びになるはずの語に「に」「ば」「ど」などが付いて文が下へ続くと、結びの形にならない）にも注意

結びの省略

係助詞の下の子の結びの語（「あれ」「あらむ」「言ふ」など）が **省略** されている場合あり。例：「～に **こそ**（あれ）」「～と **ぞ**（言ふ）」「～に **や**（あらむ）」なお、「知らず **や**」「過ぐる **か**」のように述語のあとの文末にある「や」「か」は文末用法（疑問・反語）で、結びの省略ではない（文末の「や」は終止形に、「か」は連体形に付く）。

反語の見分け方

「や」「か」が反語になる手がかり： - 文脈で「いや、～ない」と否定の含意 - 「やは」「かは」は反語になることが多い - 文末に推量（む・らむ・べし）が来ると反語になりやすい

「なむ」の識別（4種類）

「なむ」の種類	判別
係助詞「なむ」	体言・連体形＋なむ／連体形結び
終助詞「なむ」	未然形＋なむ／願望「～してほしい」
完了「ぬ」未然＋推量「む」	連用形＋なむ
ナ変動詞未然＋推量「む」	「死なむ」「往なむ」

🎯 解き方のコツ（時短テクニック）

上の「識別の鉄則」は、係り結びを見分ける基本の手順。
こちらは **試験本番ですばやく答えを出す** ための実戦テクニックです。

コツ① 文末を最初に見る（係り結びの逆引き）

係助詞問題は **文末の活用形** を先に確認する方が速い。 - 文末が **連体形** で結ばれている → 上に「ぞ・なむ・や・か」がないか探す - 文末が **已然形** で結ばれている → 上に「こそ」がないか探す
文末から逆算する方が、係助詞を見落とすリスクが減る。

コツ② 「やは・かは」を見たらまず反語

「や」「か」だけでは疑問か反語か迷うが、**「やは」「かは」** はほぼ反語。 - 「さる事**やは**ある」
「誰**かは**知る」 → 「そんなことがあるだろうか、いや、ない」「誰が知っているだろうか、いや、誰も知らない」

「は」が付いていたら、まず反語で訳してみる（疑問のこともあるので、文脈で確かめる）。

コツ③ 「なむ」の4種は直前で即決

「なむ」を見たら **直前の活用形** を即チェック。 - **連用形＋なむ** → 完了「ぬ」未然＋推量「む」（強意） - **未然形＋なむ** → 終助詞「なむ」（願望「～してほしい」） - **体言・連体形＋なむ** → 係助詞「なむ」（強調） - **「死／往」＋なむ** → ナ変動詞未然＋推量「む」

直前が連用形なら完了+推量、未然形なら願望、体言なら係助詞。ただし「見」「出で」のように未然形と連用形が同じ形の動詞は、形だけでは決まらないので文脈で決める（「いざ」があれば、終助詞ではなく完了+意志・勧誘）。

コツ④ 「こそ+已然形+、」は逆接の合図

「こそ」+ 已然形で **句が切れて続いていく** ときは、強調ではなく **逆接** に転じる。 - 「花**こそ**散れ、葉はなほ残る」 → 「花は散るけれど、葉はまだ残る」

「こそ～已然形+、」のかたちは「～けれども」と訳す。

試験本番でのチェック順序

1. **文末の活用形** を見る（連体形か已然形か）
2. 文中の **係助詞** を特定（ぞ・なむ・や・か・こそ）
3. 「やは／かは」が来ていたら、まず **反語** を考える
4. 「なむ」は **直前の活用形** で4種を見分ける

→ この順番で見れば、すばやく答えが出ます。

よくある引っかけ

- ・「死な**む**」を完了「ぬ」未然+推量と誤答（実はナ変未然+推量）
- ・「こそ～已然形+、」を強調と訳す（実は逆接）
- ・「や／か」を全部疑問と訳す（文脈で反語の可能性も常にチェック）
- ・結びの省略（「あれ」「あらめ」省略）に気づかない

採点表

- ・ 基礎（Q1～Q20）： /20
- ・ 標準（Q21～Q50）： /30
- ・ 応用（Q51～Q80）： /30
- ・ 入試レベル（Q81～Q100）： /20
- ・ 合計： /100

【第1部】基礎編（Q1～Q20）

係り結びの五助詞を識別する基礎。

Q1. 次の傍線部「ぞ」と結びを識別せよ。

花ぞ咲く。

答え：係助詞「ぞ」＋連体形「咲く」（強調） 解説：「花が咲くのだ」。

Q2. 次の傍線部「なむ」を識別せよ。

月なむ清く照る。

答え：係助詞「なむ」＋連体形「照る」（強調） 解説：「月が清く照る（のだ）」。

Q3. 次の傍線部「や」と結びを識別せよ。

鳥や鳴く。

答え：係助詞「や」＋連体形「鳴く」（疑問） 解説：「鳥が鳴くのか」。

Q4. 次の傍線部「か」と結びを識別せよ。

君か思ふ。

答え：係助詞「か」＋連体形「思ふ」（疑問） 解説：「あなたは思うのか」。

Q5. 次の傍線部「こそ」と結びを識別せよ。

心こそ安けれ。

答え：係助詞「こそ」＋已然形「安けれ」（強調） 解説：「心こそ安らかなのだ」。

Q6. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

春ぞ来たる。

答え：係助詞「ぞ」＋連体形「来たる」（強調） 解説：「春が来たのだ」。

Q7. 次の傍線部「こそ」を識別せよ。

なほ我れこそ思ひ侍れ。

答え：係助詞「こそ」＋已然形「侍れ」（強調） 解説：「やはり私こそ思います」。

Q8. 次の傍線部「や」を識別せよ。

雨や降る。

答え：係助詞「や」＋連体形「降る」（疑問） 解説：「雨が降るのか」。

Q9. 次の傍線部「か」を識別せよ。

かかる憂き世に、いかなる人か心安からむ。

答え：係助詞「か」＋連体形「む」（反語） 解説：疑問の語「いかなる」＋係助詞「か」＋形容詞「心安し」未然形「心安から」＋推量「む」連体形（「か」の結び）。「このようなつらい世の中で、どんな人が心安らかでいられようか、いや、誰もいられない」。「かかる憂き世に」とあるので、たずねているのではなく反語。

Q10. 次の傍線部「こそ」を識別せよ。

月こそ雲に隠るれ。

答え：係助詞「こそ」＋已然形「隠るれ」（強調） 解説：「月こそ雲に隠れるのだ」。

Q11. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

我れぞ知る。

答え：係助詞「ぞ」＋連体形「知る」（強調） 解説：「私こそが知っているのだ」。

Q12. 次の傍線部「なむ」を識別せよ。

鳥なむさへづる。

答え：係助詞「なむ」＋連体形「さへづる」（強調） 解説：「鳥がさえずる」。

Q13. 次の傍線部「や」を識別せよ。

人の住むにや、ともし火ほのかに見ゆ。

答え：係助詞「や」（疑問・結びの省略） **解説：**四段「住む」連体形＋断定「なり」連用形「に」＋係助詞「や」。下に結びの「あらむ」が省略されている（「住むにやあらむ」）。「人が住んでいるのであろうか、ともし火がかすかに見える」。

Q14. 次の傍線部「か」を識別せよ。

今宵は誰**か**来むと、門のかたを見やる。

答え：係助詞「か」＋連体形「む」（疑問） **解説：**カ変「来（く）」未然形「来（こ）」＋推量「む」連体形（「か」の結び）。「今夜は誰が来るのだろうか」と、門の方を見やる。来る人を思いめぐらしているので疑問（反語ではない）。

Q15. 次の傍線部「こそ」を識別せよ。

山**こそ**深けれ。

答え：係助詞「こそ」＋已然形「深けれ」（強調） **解説：**「山こそ深いのだ」。

Q16. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

鶯**ぞ**鳴き出づる。

答え：係助詞「ぞ」＋連体形「出づる」（強調） **解説：**「鶯が鳴き始めるのだ」。

Q17. 次の傍線部「や」を識別せよ。

風**や**強き。

答え：係助詞「や」＋連体形「強き」（疑問） **解説：**「風が強いか」。

Q18. 次の傍線部「か」を識別せよ。

家づとには、何**か**よからむ。

答え：係助詞「か」＋連体形「む」（疑問） **解説：**形容詞「よし」未然形「よから」＋推量「む」連体形（「か」の結び）。「家へのみやげには、何がよいだろうか」と、どれにするか考えているので疑問。

Q19. 次の傍線部「こそ」を識別せよ。

春こそいとあはれなれ。

答え：係助詞「こそ」＋已然形「あはれなれ」（強調） 解説：「春こそとても趣あるのだ」。

Q20. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

月の出づるを人ぞ待つ。

答え：係助詞「ぞ」＋連体形「待つ」（強調） 解説：「月の出るのを人が待つのだ」。

基礎編 / 20

【第2部】標準編（Q21～Q50）

反語、結びの省略・流れ、「やは・かは」の応用問題。

Q21. 次の傍線部「やは」を識別せよ。

命やは惜しき。

答え：係助詞「やは」＋連体形「惜しき」（反語） 解説：「命など惜しいだろうか、いや惜しくない」。「やは」は反語性が強い。

Q22. 次の傍線部「かは」を識別せよ。

思ふ事かは忘れぬる。

答え：係助詞「かは」＋連体形「ぬる」（反語） 解説：下二段「忘る」連用形「忘れ」＋完了「ぬ」連体形「ぬる」（「かは」の結び）。「心に思う事を忘れてしまっただろうか、いや、忘れてはいない」。

Q23. 次の傍線部「こそ」を識別せよ（結びの逆接）。

物言はぬこそよからめ、人見れば言ふ。

答え：係助詞「こそ」＋已然形「め」（逆接的） **解説：**「物言はぬ」は打消「ず」連体形「ぬ」で「物を言わないこと」。形容詞「よし」未然形「よから」＋推量「む」已然形「め」（「こそ」の結び）。「こそ～め、」と文中で切れて逆接。「物を言わないのがよいだろうが、人を見ると言う」。

Q24. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

此処にぞ書きける。

答え：係助詞「ぞ」＋連体形「ける」（強調） **解説：**「ここに書いたのだ」。

Q25. 次の傍線部「なむ」を識別せよ（係助詞？終助詞？）。

早く花咲かなむ。

答え：終助詞「なむ」（願望） **解説：**未然形「咲か」＋「なむ」（願望）。「早く花が咲いてほしい」。係助詞ではない。引っかけ。

Q26. 次の傍線部「なむ」を識別せよ。

男なむありける。

答え：係助詞「なむ」＋連体形「ける」（強調） **解説：**「男がいたのだ」。

Q27. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

我が思ふ人は、いつこにぞある。

答え：係助詞「ぞ」＋連体形「ある」（疑問の強調） **解説：**疑問の語「いつこ」＋格助詞「に」＋係助詞「ぞ」＋う変「あり」連体形「ある」（「ぞ」の結び）。「ぞ」は疑問の語といっしょに使われて問いを強める。「私の思う人は、いったいどこにいるのか」。

Q28. 次の傍線部「やは」を識別せよ。

春の夜のやみはあやなし梅の花色こそ見えね香やはかくるる。

答え：係助詞「やは」＋連体形「かくるる」（反語） **解説：**凡河内躬恒（古今集）。下二段「隠る」連体形「かくるる」（「やは」の結び）。「春の夜の闇は筋が通らない。梅の花の色は見えないけれど、香りは隠れるだろうか、いや、隠れはしない」。「色こそ見えね」も「こそ～已然形」で下へ続く逆接。

Q29. 次の傍線部「か」を識別せよ。

いづれの御時に**か**、女御、更衣あまたさぶらひ給ひける中に、いとやむごとなき際にはあらぬが、すぐれて時めき給ふありけり。

答え：係助詞「か」（疑問・結びの省略） **解説：**源氏物語（桐壺）の冒頭。断定「なり」連用形「に」＋係助詞「か」の下に、結びの「ありけむ」が省略されている。「さぶらひ給ひける」の「ける」は下の「中」にかかる連体形で、「か」の結びではない。「どの帝の御代であつたろうか、女御や更衣が大勢お仕えしていらっしゃった中に、それほど高い身分ではない方で、とりわけ帝のご寵愛を受けていらっしゃる方があつた」。

Q30. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

かの白く見ゆる山**ぞ**、富士の山なる。

答え：係助詞「ぞ」＋連体形「なる」（強調） **解説：**係助詞「ぞ」（強調）＋名詞「富士の山」＋断定「なり」連体形「なる」（「ぞ」の結び）。「あの白く見える山こそが、富士山なのだ」。係助詞「ぞ」の結びは連体形。

Q31. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

雪の白きにや、はや梅**ぞ**ひらく。

答え：係助詞「ぞ」＋連体形「ひらく」（強調） **解説：**「梅が開くのだ」。

Q32. 次の傍線部「や」を識別せよ。

月**や**あらぬ春**や**昔の春ならぬわが身ひとつはもとの身にして。

答え：係助詞「や」＋連体形「ぬ」（反語） **解説：**在原業平（古今集・伊勢物語）。「あら」（う変未然形）・「なら」（断定「なり」未然形）に付いた打消「ず」連体形「ぬ」が、それぞれの「や」の結び。「月は昔の月ではないのか、春は昔の春ではないのか、いや、どちらも昔のままだ。私の身ひとつだけはもとのままであって（あの人だけがいない）」。疑問と取る説もある。

Q33. 次の傍線部「こそ」を識別せよ。

雪のいと高く降りたるを**こそ**見れ。

答え：係助詞「こそ」＋已然形「見れ」（強調） **解説：**上一段「見る」已然形「見れ」（「こそ」の結び）。「雪がたいそう深く降り積もっているのを見るのだ」。

Q34. 次の傍線部「か」を識別せよ。

いかがせむと**か**思ひ給ふ。

答え：係助詞「か」＋連体形「給ふ」（疑問） **解説：**四段「思ふ」連用形「思ひ」＋尊敬の補助動詞「給ふ」（四段）連体形（「か」の結び）。「どうしようと思ひになるのか」。

Q35. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

人はいさ心も知らずふるさは花**ぞ**昔の香ににほひける。

答え：係助詞「ぞ」＋連体形「ける」（強調） **解説：**紀貫之（古今集・百人一首）。四段「にほふ」連用形「にほひ」＋過去（詠嘆）「けり」連体形「ける」（「ぞ」の結び）。「人の心は、さあ、どうだかわからない。昔なじみのこの里では、（梅の）花が昔のままの香りで咲きにおっていることだなあ」。

Q36. 次の傍線部「なむ」を識別せよ。

梅も咲きぬ。鶯もやがて鳴き**なむ**。

答え：完了「ぬ」未然＋推量「む」（係助詞ではない） **解説：**四段「鳴く」連用形「鳴き」＋完了（強意）「ぬ」未然形「な」＋推量「む」。「梅も咲いた。鶯もまもなくきっと鳴くだろう」。連用形に付いているので、終助詞（願望）ではない（願望なら未然形「鳴か」＋「なむ」）。引っかけ。

Q37. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

鳥**ぞ**ねぐらに帰る。

答え：係助詞「ぞ」＋連体形「帰る」（強調） **解説：**「鳥が時に帰るのだ」。

Q38. 次の傍線部「こそ」を識別せよ。

花**こそ**散りけれ、若葉ぞ生ふる。

答え：係助詞「こそ」＋已然形「けれ」（文中逆接） **解説：**係助詞「こそ」＋四段「散る」連用形「散り」＋過去「けり」已然形「けれ」（「こそ」の結び）。「花は散ったけれど、若葉は生えるの」

だ」。文中の「こそ〜已然形」は逆接的なニュアンスを生む。「散れ」（已然形と命令形が同形）の曖昧さを「けれ」で明確化。

Q39. 次の傍線部「や」を識別せよ。

思ふ事**や**ある。

答え：係助詞「や」＋連体形「ある」（疑問） **解説：**「思う事があるのか」。

Q40. 次の傍線部「か」を識別せよ。

君は、この花の盛りを知らで過ぐる**か**。

答え：係助詞「か」（疑問・文末用法） **解説：**上二段「過ぐ」連体形「過ぐる」に付いた、文の終わりの「か」（文末用法。終助詞とする説もある）。結びをとらないので、結びの省略ではない。「あなたは、この花の盛りを知らないで過ごすのか」。

Q41. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

あはれと**ぞ**思ふ。

答え：係助詞「ぞ」＋連体形「思ふ」（強調） **解説：**「しみじみと思うのだ」。

Q42. 次の傍線部「こそ」を識別せよ。

我が宿の梅**こそ**よけれ。

答え：係助詞「こそ」＋已然形「よけれ」（強調） **解説：**「私の家の梅こそが良いのだ」。

Q43. 次の傍線部「や」を識別せよ。

「この人を知らず**や**」と問へば、「知らず」と答ふ。

答え：係助詞「や」（疑問・文末用法） **解説：**四段「知る」未然形「知ら」＋打消「ず」終止形に付いた、文の終わりの「や」（文末用法。終助詞とする説もある）。下に省かれた語はなく、結びの省略ではない。「『この人を知らないか』と尋ねると、『知らない』と答える」。文末の「や」は終止形に付き、「か」は連体形に付く。

Q44. 次の傍線部「か」を識別せよ。

いづ方へ**か**行く。

答え：係助詞「か」＋連体形「行く」（疑問） **解説：**「どちらへ行くのか」。

Q45. 次の傍線部「なむ」を識別せよ。

小倉山峰のもみぢ葉心あらば今ひとたびのみゆき待た**なむ**。

答え：終助詞「なむ」（願望） **解説：**貞信公（拾遺集・百人一首）。四段「待つ」未然形「待た」＋終助詞「なむ」（相手に望む）。「小倉山の峰のもみぢ葉よ、もしお前に心があるならば、もう一度の行幸（天皇のおでかけ）まで散らずに待っていてほしい」。係助詞でないので注意。

Q46. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

大方は月**ぞ**をかしき。

答え：係助詞「ぞ」＋連体形「をかしき」（強調） **解説：**「だいたい月が趣あるのだ」。

Q47. 次の傍線部「こそ」を識別せよ。

風**こそ**寒けれ。

答え：係助詞「こそ」＋已然形「寒けれ」（強調） **解説：**「風こそが寒いのだ」。

Q48. 次の傍線部「や」を識別せよ。

ほととぎすは鳴く**や**鳴かず**や**と、人に問ふ。

答え：係助詞「や」（疑問の並列） **解説：**四段「鳴く」終止形と、打消「ず」終止形の「鳴かず」に、それぞれ「や」が付いて問いを並べる（文末用法。終助詞とする説もある）。「ほととぎすは鳴くか鳴かないかと、人に尋ねる」。文末の「や」は終止形に付く（伊勢物語の「ありやなしやと」と同じ形）。

Q49. 次の傍線部「かは」を識別せよ。

いかに嘆くとも、亡き人**かは**帰るべき。

答え：係助詞「かは」＋連体形「べき」(反語) **解説：**四段「帰る」終止形＋助動詞「べし」連体形「べき」(「かは」の結び)。「どんなに嘆いても、亡くなった人が帰ってくるだろうか、いや、帰ってはこない」。

Q50. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

心**ぞ**乱るる。

答え：係助詞「ぞ」＋連体形「乱るる」(強調) **解説：**「心が乱れるのだ」。

標準編 / 30

【第3部】 応用編 (Q51～Q80)

複雑な結びの省略・流れ、複数係助詞の並立、和歌中の係り結び。

Q51. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

山里は冬**ぞ**さびしさまさりける。

答え：係助詞「ぞ」＋連体形「ける」(強調) **解説：**源宗干。「冬こそが寂しさが増すのだ」。

Q52. 次の傍線部「こそ」を識別せよ。

八重むぐらしげれる宿のさびしきに人**こそ**見えね秋は来にけり。

答え：係助詞「こそ」＋已然形「ね」(逆接) **解説：**恵慶法師(拾遺集・百人一首)。下二段「見ゆ」未然形「見え」＋打消「ず」已然形「ね」(「こそ」の結び)。「見えね」で文が終わらずに下へ続くので逆接。「つる草が幾重にも生い茂っている宿の寂しいところに、人は訪ねて来ないけれど、秋はやって来たことだ」。

Q53. 次の傍線部「やは」を識別せよ。

嘆けとて月**やは**ものを思はするかこち顔なるわが涙かな。

答え：係助詞「やは」＋連体形「する」(反語) **解説：**西行(千載集・百人一首)。四段「思ふ」未然形「思は」＋使役「す」連体形「する」(「やは」の結び。ここで文が切れる三句切れ)。「嘆けと

言って、月が私に物思いをさせるのだろうか、いや、そうではない。(それなのに、月のせいにするような顔つきで流れる) 私の涙であることよ」。

Q54. 次の傍線部「こそ」を識別せよ。

友と語らふに**こそ**、世のうきことは忘るれ。

答え：係助詞「こそ」＋已然形「忘るれ」(強調) **解説：**四段「語らふ」連体形＋格助詞「に」＋係助詞「こそ」＋下二段「忘る」已然形「忘るれ」(「こそ」の結び)。「友と語り合うときにこそ、世の中のつらいことは忘れるのだ」。「こそ～已然形。」で文が終わっているので強調(逆接ではない)。

Q55. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

翼あらましかば、恋しき人のもとへ**ぞ**飛び行かまし。

答え：係助詞「ぞ」＋連体形「まし」(反実仮想と強調) **解説：**「ましかば～まし」の反実仮想。四段「飛び行く」未然形「飛び行か」＋反実仮想「まし」連体形(「ぞ」の結び)。「もし翼があったならば、恋しい人のところへ飛んで行くだらうに(実際は翼がないので行けない)」。

Q56. 次の傍線部「なむ」を識別せよ。

いざ、我も月を見**なむ**。

答え：完了「ぬ」未然＋意志「む」(係助詞ではない) **解説：**上一段「見る」連用形「見」＋完了(強意)「ぬ」未然形「な」＋意志「む」。「さあ、私も月を見よう」。「見」は未然形と連用形が同じ形なので形だけでは決められないが、「いざ、我も」と自分のすることを決めているので意志(終助詞なら「～てほしい」と相手に望む意味になる)。

Q57. 次の傍線部「こそ」を識別せよ。

あけぼの**こそ**をかしけれ。

答え：係助詞「こそ」＋已然形「をかしけれ」(強調) **解説：**シク活用形容詞「をかし」已然形「をかしけれ」(「こそ」の結び)。「明け方こそ趣深いのだ」。※『枕草子』の冒頭は「春はあけぼの。」で、この文とは別(作り文)。

Q58. 次の傍線部「や」を識別せよ。

花もみな散りぬ。春**や**過ぎぬらむ。

答え：係助詞「や」＋連体形「らむ」（疑問） **解説：**上二段「過ぐ」連用形「過ぎ」＋完了「ぬ」終止形＋現在推量「らむ」連体形（「や」の結び）。「花もすっかり散ってしまった。春は過ぎてしまったのだろうか」。

Q59. 次の傍線部「か」を識別せよ。

何**か**思ふ。

答え：係助詞「か」＋連体形「思ふ」（疑問） **解説：**「何を思うのか」。

Q60. 次の傍線部「こそ」を識別せよ（結びの省略）。

「春はいづれの時かをかしき」と問へば、「あけぼの**こそ**」と答ふ。

答え：係助詞「こそ」（結びの省略） **解説：**問いの「をかしき」を受けて、「こそ」の結びの已然形「をかしけれ」が省略されている。『春はどの時が趣深いか』と尋ねると、『明け方こそ（趣深い）』と答える」。

Q61. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

此の歌**ぞ**よろしき。

答え：係助詞「ぞ」＋連体形「よろしき」（強調） **解説：**シク活用形容詞「よろし」連体形「よろしき」（「ぞ」の結び）。「この歌がまあよい（悪くない）」。「よろし」は「よし」より一段低い「まあよい」。

Q62. 次の傍線部「ものを」を識別せよ。

白玉か何ぞと人の問ひし時露とこたへて消えなまし**ものを**。

答え：終助詞「ものを」（詠嘆） **解説：**伊勢物語（六段）の歌。下二段「消ゆ」連用形「消え」＋完了（強意）「ぬ」未然形「な」＋反実仮想「まし」連体形＋終助詞「ものを」（～のになあ）。「『あれは真珠か何か』とあの人が尋ねた時、『露です』と答えて、（露のように）消えてしまえばよかったのになあ」。係り結びではない（「問ひし」の「し」は下の「時」にかかる連体形）。「白玉か何ぞ」の「か」「ぞ」は引用の中の問いの言い切り（文末用法）で、結びはない。

Q63. 次の傍線部「こそ」を識別せよ。

夢こそさめね。

答え：係助詞「こそ」＋已然形「ね」（強調） **解説：**下二段「覚む」未然形「さめ」＋打消「ず」已然形「ね」（「こそ」の結び）。「夢こそは覚めないのだ」。上に「こそ」があるので、この「ね」は完了「ぬ」の命令形ではなく、打消「ず」の已然形。

Q64. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

風ぞ吹く。

答え：係助詞「ぞ」＋連体形「吹く」（強調） **解説：**「風が吹くのだ」。

Q65. 次の傍線部「か」を識別せよ。

君ならで誰にか見せむ梅の花。

答え：係助詞「か」＋連体形「む」（反語） **解説：**紀友則。「ならで」＝「～でなくて」。「あなた以外の誰に見せようか、いや誰にも見せない」。

Q66. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

月ぞ残れる。

答え：係助詞「ぞ」＋連体形「る」（強調） **解説：**四段「残る」已然形「残れ」＋存続「り」連体形「る」（「ぞ」の結び）。「月が（空に）残っているのだ」。

Q67. 次の傍線部「こそ」を識別せよ。

雪降りてこそいとあはれなれ。

答え：係助詞「こそ」＋已然形「あはれなれ」（強調） **解説：**「雪が降ってこそ風情がある」。

Q68. 次の傍線部「やは」を識別せよ。

我れと汝やは異なる。

答え：係助詞「やは」＋連体形「異なる」（反語） **解説：**「私とあなたとが違うだろうか、いや違う
ない」。

Q69. 次の傍線部「かは」を識別せよ。

何かは思ふらむ。

答え：係助詞「かは」＋連体形「らむ」（反語） **解説：**四段「思ふ」終止形＋現在推量「らむ」連
体形（「かは」の結び）。「(あの人は今) 何を思っているだろうか、いや、何も思っていないだろ
う」。

Q70. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

昔、この山に鬼住みけりとぞ。

答え：係助詞「ぞ」（結びの省略） **解説：**引用の「と」＋係助詞「ぞ」の下に、結びの「言ふ」（連
体形）などが省略されている（「とぞ言ふ」）。「昔、この山に鬼が住んでいたということだ」。

Q71. 次の傍線部「こそ」を識別せよ。

春こそ来たれ。

答え：係助詞「こそ」＋已然形「来たれ」（強調） **解説：**「春が来たのだ」。

Q72. 次の傍線部「や」を識別せよ。

「この里に我を知る人やある」と人に問ふ。

答え：係助詞「や」＋連体形「ある」（疑問） **解説：**ラ変「あり」連体形「ある」（「や」の結び）。
「『この里に私を知っている人はいるか』と人に尋ねる」。

Q73. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

雪の朝に犬ぞ走る。

答え：係助詞「ぞ」＋連体形「走る」（強調） **解説：**「犬が走るのだ」。

Q74. 次の傍線部「こそ」を識別せよ。

いまは**こそ**さらに思はね。

答え：係助詞「こそ」＋已然形「ね」（強調） **解説：**四段「思ふ」未然形「思は」＋打消「ず」已然形「ね」（「こそ」の結び）。「さらに～ず」で「まったく～ない」。「今となつてはもう、まったく思わない」。

Q75. 次の傍線部「か」を識別せよ。

門の外に泣く声す。いかなる人**か**、かかる目を見るらむ。

答え：係助詞「か」＋連体形「らむ」（疑問） **解説：**上一段「見る」終止形＋現在推量「らむ」連体形（「か」の結び）。「門の外で泣く声がある。どんな人が、こんなつらい目にあっているのだろう」。姿の見えない、泣いている人のことを推し量っているので疑問。

Q76. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

かくて年月**ぞ**過ぎぬる。

答え：係助詞「ぞ」＋連体形「ぬる」（強調） **解説：**上二段「過ぐ」連用形「過ぎ」＋完了「ぬ」連体形「ぬる」（「ぞ」の結び）。「こうして年月が過ぎてしまったのだ」。

Q77. 次の傍線部「や」を識別せよ。

かの人**は**、都の人**にや**。

答え：係助詞「や」（疑問・結びの省略） **解説：**名詞「人」＋断定「なり」連用形「に」＋係助詞「や」。下に結びの「あらむ」が省略されている（「都の人**にや**あらむ」）。「あの人**は**、都の人であろうか」。

Q78. 次の傍線部「こそ」を識別せよ。

日も暮れぬめり。道を**こそ**急がめ。

答え：係助詞「こそ」＋已然形「め」（強調） **解説：**四段「急ぐ」未然形「急が」＋意志「む」已然形「め」（「こそ」の結び）。「日も暮れてしまったようだ。道を急ごう」。「めり」は終止形で文が切れるので、その下に「こそ」を続けることはできない。

Q79. 次の傍線部「かは」を識別せよ。

誰**かは**来む。

答え：係助詞「かは」＋連体形「む」（反語） **解説：**「誰が来るだろうか、いや来ない」。

Q80. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

人を待つ夜**ぞ**長き。

答え：係助詞「ぞ」＋連体形「長き」（強調） **解説：**ク活用形容詞「長し」連体形「長き」（「ぞ」の結び）。「人を待つ夜が（とりわけ）長いのだ」。

応用編 / 30

【第4部】入試レベル（Q81～Q100）

難関大頻出の引っかけ・結びの省略・流れ・複合係り結び。

Q81. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

奥山に紅葉踏み分け鳴く鹿の声聞く時**ぞ**秋は悲しき。

答え：係助詞「ぞ」＋連体形「悲しき」（強調） **解説：**古今集の歌（よみ人しらず。百人一首では猿丸大夫）。シク活用形容詞「悲し」連体形「悲しき」（「ぞ」の結び）。「奥山で紅葉を踏み分けて鳴く鹿の声を聞く時こそ、秋は悲しいものだ」。

Q82. 次の傍線部「こそ」を識別せよ（結びの流れ）。

我れ**こそ**思ひ侍るに、人は知らず。

答え：係助詞「こそ」（強調・結びの流れ） **解説：**「侍る」はう変「侍り」の連体形（已然形は「侍れ」）。下に接続助詞「に」が付いて文が続くので、「こそ」の結び（已然形）にならずに流れている（結びの流れ）。「私こそ（このように）思っておりますのに、人は知らない」。逆接は「こそ」ではなく接続助詞「に」による。

Q83. 次の傍線部「なむ」を識別せよ。

道知れる人**なむ**ありける。

答え：係助詞「なむ」＋連体形「ける」（強調） **解説：**ラ変「あり」連用形＋過去「けり」連体形「ける」（「なむ」の結び）。「道を知っている人がいたのだった」。

Q84. 次の傍線部「なむ」を識別せよ。

早く帰**りなむ**。

答え：完了「ぬ」未然＋意志「む」 **解説：**連用形「帰り」＋「な」＋「む」。「早く帰ってしまおう」。係助詞ではない。

Q85. 次の傍線部「なむ」を識別せよ。

散**らなむ**。

答え：終助詞「なむ」（願望） **解説：**未然形「散ら」＋「なむ」。「散ってほしい」。

Q86. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

いとあはれと**ぞ**おぼゆる。

答え：係助詞「ぞ」＋連体形「おぼゆる」（強調） **解説：**「とてもしみじみと思われる」。

Q87. 次の傍線部「や」を識別せよ。

幼き時は、親の心を思ひ知らで**や**ありけむ。

答え：係助詞「や」＋連体形「けむ」（疑問） **解説：**四段「思ひ知る」未然形「思ひ知ら」＋接続助詞「で」（～ないで）＋係助詞「や」＋ラ変「あり」連用形＋過去推量「けむ」連体形（「や」の結び）。「幼い時は、親の心を身にしみてわからないでいたのだろうか」。昔の自分をふり返って推し量っているので疑問。

Q88. 次の傍線部「か」を識別せよ。

友もみな去りぬ。わが心を知る人**か**世にあらむ。

答え：係助詞「か」＋連体形「む」（反語） **解説：**う変「あり」未然形「あら」＋推量「む」連体形（「か」の結び）。「友もみな去ってしまった。私の心をわかってくれる人が、この世にいるだろうか、いや、いない」。

Q89. 次の傍線部「こそ」を識別せよ。

ものいはぬ世**こそ**さびしけれ。

答え：係助詞「こそ」＋已然形「さびしけれ」（強調） **解説：**「物言わぬ世こそ寂しい」。

Q90. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

涙**ぞ**こぼるる。

答え：係助詞「ぞ」＋連体形「こぼるる」（強調） **解説：**「涙がこぼれるのだ」。

Q91. 次の傍線部「やは」を識別せよ。

かかる所に、人**やは**住む。

答え：係助詞「やは」＋連体形「住む」（反語） **解説：**四段「住む」連体形（「やは」の結び）。「このような所に、人が住むだろうか、いや、住みはしない」。

Q92. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

いかなる御代に**ぞ**侍りし。

答え：係助詞「ぞ」＋連体形「し」（疑問の強調） **解説：**「どんな御代であったのか」。

Q93. 次の傍線部「こそ」を識別せよ。

人**こそ**つらけれ、世はうらめしからず。

答え：係助詞「こそ」＋已然形「つらけれ」（逆接） **解説：**「人こそ薄情だけれども、世は恨めしくない」。

Q94. 次の傍線部「か」を識別せよ。

これは誰がしわざにか。

答え：係助詞「か」（疑問・結びの省略） **解説：**名詞「しわざ」＋断定「なり」連用形「に」＋係助詞「か」。下に結びの「あらむ」が省略されている（「しわざにかあらむ」）。「誰が」の「が」は「の」の意味。「これは誰の仕業であろうか」。

Q95. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

あはれにぞ思ひ知らるる。

答え：係助詞「ぞ」＋連体形「るる」（強調） **解説：**四段「思ひ知る」未然形「思ひ知ら」＋自発「る」連体形「るる」（「ぞ」の結び）。「しみじみと（自然に）思い知られることだ」。

Q96. 次の傍線部「や」を識別せよ。

此の世にあるもの、皆夢なりとや。

答え：係助詞「や」（疑問・結びの省略） **解説：**断定「なり」終止形＋引用の「と」＋係助詞「や」。下に結びの「言ふ」（連体形）などが省略されている（「夢なりと言ふ」）。「この世にあるものは、みな夢だというのか」。

Q97. 次の傍線部「こそ」を識別せよ（結びの省略）。

人の心の変はるも、世のならひにこそ。

答え：係助詞「こそ」（結びの省略） **解説：**名詞「ならひ」＋断定「なり」連用形「に」＋係助詞「こそ」。下に結びの「あれ」（已然形）が省略されている（「ならひにこそあれ」）。「人の心が変わるのも、世の中のならわしなのだ」。

Q98. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

ひとり住む宿の秋の夕暮れぞ寂しき。

答え：係助詞「ぞ」＋連体形「寂しき」（強調） **解説：**係助詞「ぞ」＋シク活用形容詞「寂し」連体形「寂しき」（結び）。「ひとりで住む家の秋の夕暮れは、とりわけ寂しいことだ」。

Q99. 次の傍線部「なむ」を識別せよ。

君もまた行かなむ。

答え：終助詞「なむ」（願望、他者への願い） 解説：四段「行く」未然形「行か」＋終助詞「なむ」。「あなたもまた行ってほしい」（自分ではなく相手にあつらえ望む）。係助詞でない。

Q100. 次の傍線部「こそ」を識別せよ。

あれこそ世に類なき名歌なれ。

答え：係助詞「こそ」＋已然形「なれ」（強調） 解説：名詞「名歌」＋断定「なり」已然形「なれ」（「こそ」の結び）。「あれこそ世に比べるもののない名歌である」。

入試レベル /20

採点振り返り

セクション	配点	得点
基礎（Q1～Q20）	20	
標準（Q21～Q50）	30	
応用（Q51～Q80）	30	
入試（Q81～Q100）	20	
合計	100	

- ・ 80点以上：完璧。「なむ」の4種識別もできる
- ・ 60～79点：標準合格レベル
- ・ 40～59点：基礎は固まっている。反語・結びの省略を反復
- ・ 39点以下：5助詞と結びの活用形から再スタート

あとがき

係助詞「ぞ・なむ・や・か・こそ」の核心： - ぞ・なむ → 連体形結び（強調） - や・か → 連体形結び（疑問・反語） - こそ → 已然形結び（強調） - 「やは」「かは」 はほぼ反語 - 「こそ～已然

形、」で文中の逆接 - 「なむ」の4種識別：係助詞／終助詞（願望）／完了「ぬ」＋推量「む」／ナ
変＋推量「む」

入試最頻出。完全暗記必須。

著作権：個別指導塾フィット / 中本裕太

© 個別指導塾フィット / 中本裕太 <https://kotennoosennsei.com>